令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【植竹中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)資料や機器を用いて、自分の考えを伝える、根拠を明確にして書くことができる資質・能力 (2)個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用できる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)生徒の探究的な活動の中で根拠を明確にして考えることや「Google Classroom」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う授業の実施。【各単元の中で1回以上】 (2)「スタディサプリ」などの基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し予習と復習の習慣化を定着させる。また、自分の学びについて振り返る時間を設定する。【各単元ごとに1回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語の「経験したことを基に書く」問題に課題がみられた。解答類型や反応率からみると「表現の効果を考えて描写すること」や「書こうとしている文章の展開を考える際に、目的や意図に応じて効果を考えながら展開を工夫する」ことができていない生徒が多かった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫する構成の検討について課題がみられる。 ・学習指導要領の領域や評価の観点に関わる出題についての正答率は、国語、数学とも全国、市の平均を超えていた。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。(1)について、生徒の実態を踏まえて、思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う授業を引き続き実施する。(2)についても基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し予習と復習が習慣化するように取り組んでいく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）